

東北商工時報

毎月三回一日十日廿日發行
印刷所 高木良衛
編輯所 高木良衛
發行所 東北商工時報社
福島縣平野町南町
印刷所 昭和活版所
廣告料 一行金五十錢
一部金五錢 一月十錢
一少年郵税共一圓廿錢

昭和活版所
福島縣平野町南町

老練の平町新町長

青沼鋒太郎氏

伏見町長の後をうけて平町長に就任された青沼鋒太郎氏は現に平町信用購買組合長、産業部會長の職にあり、平町會議員には大正十四年より當選繼續する手腕力量共に卓絶せる老練の士である。

氏は明治二十一年福島裁判所書記に任官、若松福島の検事局を経て平検事局に轉じ間もなく福島監獄看守長となり明治三十年、長崎縣警部に榮進し同縣福島鹽崎長崎の各署長を歴任して同縣警察部衛生課長、高等課長たりし事あり明治三十四年に岩手縣警務課長に轉任し明治三十六年警視となるや盛岡署長、岩手縣和賀郡長に累進明治四十一年本縣東白川郡長、四十三年十月

大山祇神社を北に四圍の山々神氣に満つる野澤町十一鹽屋旅館
大山祇神社の鎮座に名を知らるゝ河沼郡野澤町にあ

る十一鹽屋旅館は百數十年来此の土地にあつて旅館を營む中緒深き舊家である。往時野澤は越後街道の交通上重要な位置を占め相當の繁榮を見、通行諸大名の御宿所と定められた十一鹽屋である、然るに二十余年前の大火に逢ひ當時の廣壯なる館の面影は忍ばれぬが變つた屋敷十一鹽屋

その名のうちにほだされた歴史が包まれて居るか知れない、先祖は三浦某なる武士の出にして戦國の世落武者となり此の地に來りたるに始まり以來幾星霜を経て今日に至りたるものにして明治の初期頃より旅館を業とする傍ら酒造、鹽問屋郵便局等も經營せしとき々現名の十一とは當時の荷印であり鹽問屋よりその名の出でて今に十一鹽屋として残つたことである。

焼失以來増築をなすこと八度今や二百人の客を收容し得る大旅館となり料理店も兼營し神氣に更け行く野澤第一の旅館となつた。磐越西線開通以來參拜の客足も繁くなり又近時スキー場を設けて冬の野澤を現出せんと町長齋藤龍多郎氏を始めとし町民一同宣傳につ

とめられ交通に恵まれた地の利を得て近き將來には相當の發展を見るものと思ふ大山々麓には廣ハシなるスキー場を設けあり四尺に余る積雪はスキーヤーにとつての好條件であると共に浴湯の設備も完成して十一鹽屋の如きは有に三十人の浴客を收容し得る大なるものを設け今よりスキーマンの入野を待つ有様である。

不況の嵐は農村を席捲し國民教育の樞要の地位を占むる小學校教員も俸給未拂で生活苦に泣く者が増加してきたが石城郡山間部部の如き最も甚だしく最高未拂八ヶ月にも及び郡下某小學校教員間には之が對策として自力更生を基幹とする相互扶助機關として共済組合を設置し彼等自らの力で現下の不況に堪え國民教育の實績をあげんとする要望各方面に起りつつあり、来る秋季郡下教員總會には議案として提案されるものらしく各方面の注目のもととなつてゐる。

商工月日

常磐各炭礦が不況打開の一策として運動を續けて來た鐵道運賃値下げ問題は近きつ、ある旨屢報の如くであるが所轄仙臺鐵道監督局では専門技術官を現地に派しこぼし、實情調査の結果、石炭と運賃の關係が他礦石類に比し頗る高率、巨額が漸次多くなつて行く傾向を知り今同算出根據の最も確實なる調査要項を社會局に報告したが、これによつて常磐炭田の生命維持に何らかの適切した施設を監督局でも要望してゐる。

今年の地方蠶況は夏秋蠶以來の價格奔騰に刺戟され晩秋蠶の如きは一躍二圓五十錢位に釣り上げられ尙ほ且つ不足を生じたため粗悪な無検査のものが出現するまわらないから行こうよ

町はづれの夕方静かな通りを四歳位の男の子が泣きながら歩いて行く後から呼びとめた十八九の娘二人、丈の高い方が「何うしたの」子供は泣きやんで娘の顔を振り向きながら「おうちがわからないの」

「あら困るわ」それから名前や番地を色々と訊くけれど子供はベソをかきばかりで答へない常感して背の高い方の娘が小柄な友達に「どうしませう」

「あちら」「そう……ちや連れてつてあげるわ」すると子供は直ぐに今來た方を指さして「あつち」

「どうしませう」と相談した「大河内を見損ふわよか

新築落成致しまして十七日より營業を開始致しました何卒倍舊の御愛顧を牛鍋御飯付 三十五錢 お酒 一本 三十錢

石城郡平田町 石川亭 電四三番 萬圓の巨額にのぼり半分の生産費を控除するも五十萬圓の大金が農家の懐へ轉げ込んだわけである。而もこの藪景氣は米國の生糸界現況から見ても當然來年へ持越される氣勢に在る。

「どうしませう」と相談した「大河内を見損ふわよか

「どうしませう」



亂れ及の影

(三) 良衛生

お節の部屋の前に来たとき不思議にも閉め切られた彼女の室内からひそくと男女の聲が洩れてきた。彼は心細々ながら築き上げられた空想は無惨にも破壊されて行つた。且つて知つたことのない極度に恐ろしい不安が突然身に迫つて来た。戦く手にそつと全く字義通り微かに覗けるだけ襖を明けて見た。

素早く電流が通つて行くやうに彼は身体が瞬間凝結してしまつたやうに感じた。鋭敏な神経の尖端に微細なだが根強い驚聲が洩れただけである。意識がもどると共に今日前に見た赤い下着の縫れが大きく鮮やかに描き出されてきた。目を閉じても到底消されそうもない執着である。四方がぐらぐらと揺ぎ出して又赫々と燃え上る炎の真中に彼は停立したやうな気がした。動悸が打つ恐ろしい早鐘の中に嫉妬は素直に操案の手を延して行つた。

不義の女！お節！取り返しのつかない程の巧さで着物の縞目を握つて居た男は知り難かつたが行燈の灯影に浮つた反逆の事實に血が逆流し出した様に

吉三郎の虚弱ながらも男としての手筈があると思つたが不義者は何處までも死んだやうな恐怖を續けて居たのだ。彼は思つた。此んな不甲斐ないやつらに自分の家の權威を踏みじられたか。否自分の見返られた醜貌を恨まずには居られなかつた。怒りに慄える右の手は炎へ上つた怨恨に全く勢を増してしつかり刀の柄を握つた。口の邊りの筋肉がビリビリと引きつった。「腰抜け武士！立てぬか」斯ふ一氣に云ひ放つと慎之助はお節の肩越しに吉三郎真二つと切りつけた。怒り狂つた彼は前後を忘却して居た。いくら女中が密通をしたとて殺人の罪は逃れ得ない。彼はお節と女如き吉三郎に彼自身を引き競べることとを忘れて居た。【續く】

小名濱小唄

赤井の頂きやあれ薄曇り
沖じや大漁か群
群れきた眞白だ銀の波
引けよと引け腕捕え

鹽谷岬に燈臺つけば
やさし乙女の薄化粧
夕焼小焼で宵をまつ
あの子散歩か濱へ行く

そよ涼風磯なでくれば
小名の中島花ざかり
唄に更け行く七濱見れば
明日の舟出が思はるゝ

いとう家具店

是非一度皆様のお出でを
お持ちして居ります
石城郡平町新川町通り

貴族院議員 金 成 通
衆議院議員 八 田 宗 吉
同 比 佐 昌 平
同 佐 藤 庄 太 郎
同 鈴 木 辰 三 郎

薄利多賣ノ親玉

家具製造 是非一度皆様のお出でを
筆筒雜貨 お持ちして居ります
警城片倉製糸株式会社

工場長 辰 野 賢 造
事務長 中 村 吉 郎

石城郡錦村消防組頭 登 強 口 組
石城郡泉村 土木請負業
石城郡内郷村綴 中野目廣次
土木建築請負業
吉川久太郎
東白川郡鮫川村長 芳賀金之助

石城郡好間村 田村郡小野新町 高橋龜次郎
石川郡淺川村長 矢吹勝之助
東白川郡豊田村長 高信正明

石城郡平町四丁目
マルトモ柴田書店
電二三四番

喜多方町
加賀平薬舗
電二六番

河沼郡野澤町
小柴源次郎

大沼郡西川村宮ノ下
齋藤藤三郎

河沼郡坂下町
藤原善吉

東白川郡高城村長
佐藤庄太郎

石城郡勿來町白米
山木炭礦鑛業所

警城セメント特約店
釜屋商店
平町五丁目 電話九番九九番

小田隈田川炭礦
礦主 小 田 吉 次
所長 輪 違 武 雄

小田炭礦炭原鑛業部
礦主 萩 原 申 八

安價で 天然加里肥
効果的 な 最も適應する作物！
野菜、馬鈴薯、里芋、しょうが類
◎ナス類ではトマト、ナスの如き比較的病害に弱き作物に
施用すれば抵抗力を興へ実果を助ぎます
天然加里肥は酸性でないから
如何に施用しても土壌を悪變する虞は絶対にありません
一俵三十錢 大量取引は
特に割引致します
製造販賣 金 成 國 雅
平町鎌田 電六八八番

河沼郡野澤町
相馬郡原ノ町
町長 松永七之助
相馬郡小高町
小高銀工場
双葉中學校長
須田秋之進

東白川郡石井村長
鈴木宗治